

平成12年度試験研究成果

区分	普及	題名	平成13年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤，殺菌剤		
[要約] 平成13年度の岩手県病害虫防除基準の改訂にともない、新規に採用した殺虫剤と殺菌剤および変更事項の概要を示した。					
キーワード	病害虫防除基準	殺虫剤、殺菌剤	改訂事項	生産環境部 病害虫研究室	

1. 背景とねらい

平成13年度の防除基準編成会議に提案して新たに掲載されることになった内容、新規採用薬剤、および主な変更事項を紹介し、病害虫防除対策の資とする。

2. 技術の内容

主な新規採用剤および追加項目は以下のとおり。作物ごとの改訂事項は別表参照。

(1) 水稻

・ジクロシメット粒剤：水稻のいもち病

(2) 畑作物

麦類と大豆に、無人ヘリによる病害虫防除の項目を追加

(3) 野菜

・炭酸水素カリウム剤：きゅうりのうどんこ病
 ・エマメクチン安息香酸塩乳剤：きゅうりのワタヘリクロノメイガ
 ・ノンルフェノールスルホン酸銅水和剤：ねぎのべと病
 ・フルアジナム粉剤：レタスのすそ枯れ病
 ・非病原性エルビニア・カロトポーラ水和剤：キャベツ、はくさいの軟腐病
 いちごに、殺虫剤、殺菌剤のミツバチへの影響一覧表を追加

(4) 花き

・ジフルメトリム乳剤：りんどうの葉枯れ病
 ・メパニピリム水和剤：りんどうの灰色かび病
 ・ピフェントリン水和剤：りんどうのアザミウマ類

(5) 果樹

・ピフェナゼート水和剤：りんごのハダニ類
 ・シラフルオフェン水和剤：りんごのカメムシ類
 ・アリマルア・オリフルア・テトラニゼルアセテート・ピーチフルア剤（複合交信攪乱剤）
 ：りんごのモモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、キンモンホソガ、ミダレカクモンハマキ、
 リンゴモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ

(6) その他

生物農薬およびフェロモン剤の使用法の項目を追加

3. 普及上の留意事項

改訂項目をもとに、地域の防除体系や防除暦編成の見直しを行う。

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

病害虫制御 3 - 1 - (2) - ア 新農薬の効果検定と防除基準作成

6. 参考文献・資料

7. 試験成績の概要

表1 平成13年度病害虫防除基準に採用した主な農薬

農薬名〔商品名〕	対 象		使 用 方 法	採用理由および 使用上の留意点
	作物	病害虫名		
ジクロシメット粒剤 〔デラウス粒剤〕	稲	いもち病	使用時期：移植直前 使用方法：50g / 箱	従来の箱施用剤と同等 に高い効果がある。
炭酸水素カリウム剤 〔カリグリーン水溶 剤〕	きゅうり	うどんこ 病	使用時期：急増期前 使用方法：800倍	従来はハウス栽培での み使用されていたが、 改良され露地栽培での 効果も認められた。
エマメクチン安息香 酸塩乳剤 〔アフーム乳剤〕	きゅうり	ワタヘリ クロノメ イガ	使用時期：収穫前日まで 使用方法：2,000倍	多くの薬剤の効果がない 本虫に、安定した防 除効果が認められた。
非病原性エルビニア ・カロトポラ水和 剤 〔バイオキパー水和 剤〕	キャベツ はくさい	軟腐病	使用時期：収穫直前まで (発病前～発病初期) 使用方法：1000倍	殺菌剤としては初めて の生物農薬。 防除効果が高い。
ノニルフェノールス ルホン酸銅水和剤 〔ヨネポン水和剤〕	ねぎ	べと病	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：500倍	ねぎへの付着が良く、 防除効果が高い。
フルアジナム粉剤 〔フロンサイド粉 剤〕	レタス	すそ枯病	使用時期：定植前 使用方法：30kg/10a 土壌混和	定植前の処理により、 降雨日が続いて茎葉散 布できないという問題 が解決できる。
ジフルメトリム乳剤 〔ピリカット乳剤〕	りんどう	葉枯れ病	使用時期：発病初期まで 使用方法：2,000倍	防除効果が高い。 他に登録薬剤が少な い。
メパニピリム水和剤 〔フルピカフロアブ ル〕	りんどう	灰色かび 病	使用時期：発病初期まで 使用方法：3,000倍	
ピフェントリン水和 剤 〔テルスターフロア ブル〕	りんどう	アザミウ マ類	使用時期：生育中 使用方法：4,000倍	防除効果が高い。 他に登録薬剤が少な い。
ビフェナゼート水和 剤 〔マイトコーネフロ アブル〕	りんご	ハダニ類	使用時期：収穫7日前まで 使用方法：1,000倍	新規系統の薬剤で、抵 抗性ハダニ類にも有効 で、ローテーション散 布に有用である。
シラフルオフエン水 和剤 〔MR.ジョーカー水 和剤〕	りんご	カメムシ 類	使用時期：収穫14日前まで 使用方法：2,000倍	効果が高く、収穫前使 用日数が14日前なので カメムシ類が飛来する 8月にも使用できる。
複合交信攪乱剤 〔コンフューザー A〕	りんご	主要鱗翅 目害虫6 種	使用時期：6月上旬 使用方法：200本 / 10a	本剤の設置により殺虫 剤の散布回数削減が可 能である。